

5-7

新棟建設によるユニットケア導入に向けての準備

ユニットケアをイメージした環境改善

環境改善

ケア向上

特別養護老人ホーム

たまさいせいえん
多摩済生園

フロアリーダー 関 孝一

フロアリーダー 関口 一夫

小平市 美園町 3-12-1

TEL 042-343-2291

E-mail: tama-sai.sidouka@jcom.home.ne.jp

FAX 042-342-1535

URL: <http://www.tama-saisei.or.jp/txt/saiseien.html>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

昭和52年開設。小平霊園の側にある閑静な環境。定員115名（内Sステイ9名）法人内に病院・ケアセンター・訪問看護がある。その他に地域への給食サービスなど様々なサービスを提供。

〈取り組んだ課題〉

開設より29年が経過し施設の老朽化が目立ちはじめている。

居室は多床室（6人部屋）その他の共用部分も食堂のみで、食堂に入りきらない利用者は廊下で食事をするぐらいにスペースが無い状態。生活の場というよりは病院のような雰囲気がある。利用者の重度化により各フロアで様々な問題が上がってきていた。

その際に新棟建設の話が持ち上がった。

新棟建設にあたり利用者の個別ケアを見直し、排泄、食事、入浴環境整備など生活全般のケアの見直しを行った。その一つの中で以前より進めていた環境整備を昨年度は外部の協力えて改善を進めた。

環境の改善の課題として

1F～狭いスペースの中で生活するため利用者間のトラブルが絶えない。

2F～利用者の落ち着いて過ごせる場所が少ない

居心地のよい環境作り

が課題としてあがった。

〈具体的な取り組み〉

社会福祉事業大学の「環境改善プロジェクト」に参加し、各フロアの環境改善を行なった。

●環境改善の手順

- ① 各フロアの環境のモニタリング
- ② モニタリングの結果、環境の問題点を把握
- ③ 把握した問題点を各フロアで改善
- ④ 改善前と改善後の評価と今後の課題の抽出。

〈活動の成果と評価〉

- ・トラブル件数の減少。
- ・改善実施後の生活環境の変化
- ・実施前後のアンケート調査による評価。

〈今後の課題〉

- ・整備された環境の維持。
- ・継続的な環境の改善。

〈参考資料など〉

認知症高齢者環境支援指針に基づく既存の施設の環境改善手法の開発と効果の多面的評価

（研究代表者：児玉 桂子）

（日本社会事業大学 社会福祉学部教授）